

経営理念

病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦することにより 世界に貢献すると共に社員の豊かな生活を創造する



創業時の12名のメンバー



創業者 荻野 義夫

ME、それは医学と工学の出会い

今でこそ、ME (Medical ElectronicsあるいはMedical Engineering) という言葉は広く知られていますが、未だMEという言葉が生まれる以前、戦争末期の昭和19年頃から日本光電の胎動は始まっていました。

創業のきっかけとなったのは、小鳥の翼の神経筋でした

当時、電子工学の研究をしていた創業者 故荻野義夫は、偶然、小鳥の翼の神経筋を使った電気刺激実験を目にし、「生体の一部分が、日本中の電気の大家が研究した装置の何百分の一の大きさで、しかも感度は2桁以上」という、生物の驚異に感動を受けたのです。生物の中でも特に精巧な「人間」(＝医学)を学び、生物のもつ精巧さを、より次元の高い工学へ応用できないか、医学と工学の接点を研究することにより、人の命を救うことができれば…。

その強い想いに動かされ、改めて医学を学び、1951年8月に会社を設立しました。

「病を癒す…それは主義や国境を越えるもの。どんなに情熱を注ぎ込んでも悔いはない」

このゆるぎない信念のもと、医療現場に根ざした技術開発で、数々の革新的なME機器を送りだしてきました。

医療環境は変化し、日本光電が生み出す製品も多岐にわたってきましたが、創業時の信念は、今も変わることなく、技術者の中に受け継がれています。

これまでに開発した医療機器は、世界120ヵ国以上の医療現場でお使いいただき、多くの患者さんを救っています。「医療現場に根差した技術開発力」「国内外の幅広い顧客基盤」「高品質の製品・サービスとそれを支える開発・生産・販売・サービス体制」「長年にわたって培われたブランド力」という強みを活かし、これからも病魔の克服と健康増進に先端技術で挑戦し、世界に貢献する企業として、患者さんや医療従事者の皆様にとっての価値を創造・提供し続けます。

日本光電の軌跡

日本光電は1951年8月の創業以来、革新的な医療機器の提供を通じてヘルスケアの課題に挑戦し、社会に貢献することで、着実に成長してきました。

1951年12月

世界初の全交流直記式脳波装置 ME-1Dを発売
世界を変える脱・電池
交流電源駆動式の脳波計が誕生

当時の脳波装置のほとんどは、交流雑音障害を避けるため、電池を電源とした輸入品であったことから、検査途中で電池がなくなり記録が途切れ、大切な脳波の現象記録を取り逃がしてしまったり、電池そのものの保守に問題がありました。日本光電では雑音障害の低減、操作性の改良などを行った、世界初の全交流直記式脳波装置を開発することで、適切な脳波検査の実施と検査結果の提供を可能とするとともに、患者さん、医療従事者の負荷軽減に寄与しました。



1967年4月

日本初の重症患者監視装置 ICU-80を発売
複数の患者さんのバイタルサインを集中管理
自社初のシステム製品を発売

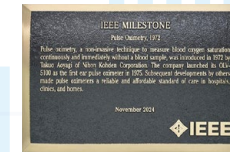
重症患者監視装置は、ナースステーションに監視制御デスクを設置し、患者さん（最大8名）のベッドサイドに監視ユニットを設置することで、脳波、心電図、血圧、心拍数、呼吸数、体温の集中管理と記録を実現しました。これにより、ナースステーションにおいて患者さんの容態変化の把握や、バイタルサインの記録を可能とし、医療の質・安全性の向上、医療従事者の負荷軽減に寄与しました。



2024年11月

パルスオキシメータの原理がIEEEマイルストーンに認定

日本光電の技術者 故青柳卓雄 工学博士らが発明したパルスオキシメータの原理が、IEEE（米国電気電子学会）よりIEEEマイルストーンに認定されました。これは、1983年に創設され、電気・電子・情報・通信の分野において達成された技術革新の中で、開発から25年以上が経過し、社会や産業の発展に貢献した歴史的偉業を表彰する制度です。パルスオキシメータが医療の質向上に多大な貢献をした功績が高く評価されたことから、認定に至りました。



1970年度
売上高 44億円

2000年度
売上高 667億円
国内売上高 594億円
海外売上高 73億円

2025年度
売上高 2,350億円
国内売上高 1,444億円
海外売上高 906億円

1950年代

1952年3月
世界初の電気眼底（脳内）血圧計 MOB-1を発売



1955年6月
世界初の電子管記録式心電計 MC-1Cを発売



1960年代

1960年9月
日本初の多用途監視記録装置（ポリグラフ）RM-150を発売



1965年8月
日本初の直流式心室細動除去装置（デフィブリレータ）MDV-1を発売



1970年代

1974年3月
世界初となるパルスオキシメータの原理に関する国内特許を出願



1976年11月
世界初のテレメータ式患者監視装置 WEP-6000を発売



1980年代

1984年2月
世界初のオールテレメータ化分娩監視装置 OMF-7201を発売



1985年4月
世界初の呼吸総合モニタ OMR-7101を発売



1990年代

1990年12月
日本初のデジタル心電図テレメータの医用テレメータ WEP-8430/8440を発売



1991年3月
世界初のデジタル・マルチパラメータテレメータ式ベッドサイドモニタ BSM-8502を発売



2000年代

2003年5月
世界初のメインストリーム式で気管挿管していない患者さんに使用できるCO₂センサを発売



2009年6月
国産の自動体外式除細動器 AED-2100を発売



2010年代

2018年8月
世界初の超音波プローブと接続してエコー画像を表示できる中位機種ベッドサイドモニタ CSM-1700を発売

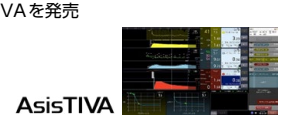


2019年6月・9月
自社製初の人工呼吸器 NKV-330、NKV-550を発売



2020年代

2023年7月
日本初の全静脈麻酔支援シリンジポンプ制御ソフトウェア ROP-1680 AsisTIVAを発売



2024年8月
早期警告スコアにより患者さんの容態急変・悪化を予防する患者容態把握ダッシュボードソフトウェア QH-101Nを発売

